

平成 27 年度
学士学位論文

OpenStack 環境でのオーケストレーション定義を容易にする GUI エディタの実現

1160304 川口 貴大
指導教員 横山 和俊

2016/02/15

高知工科大学 情報学群

要 旨

OpenStack 環境でのオーケストレーション定義を容易にする GUI エディタの実現

川口 貴大

近年，IT リソースの迅速な確保，コスト削減等の目的からシステムの基盤として IaaS の需要が高まっている．IaaS を用いたものに限らず，IT サービスにおけるシステム設計では冗長化や負荷分散，処理の効率化といった理由により，複数マシンの構成となる場合が多く見られる．しかし，システムの流用や再利用が求められる場面では，大規模なシステムになるにつれ，マシン台数も増加し設定に掛かる工程が増大してしまう．そのため，システム再現における作業の効率化が求められている。

OpenStack は最も開発が進んでいる IaaS 基盤ソフトウェアの一つであり、コミュニティには多くの有名企業が参加している。OpenStack では Heat と呼ばれるオーケストレーション（自動構築）機能を提供するソフトウェアにより、システムの再現を効率化している。Heat では IT リソースの構成情報を記述した設計図（テンプレートファイル）を読み込ませることで、その構成情報を基に自動的にシステムの構築を行う。そのため、テンプレートファイルの作成はシステムを構築する上で重要な役割を担っている。しかし、テンプレートファイルは書式が複雑であり、記述を行う際には Heat 独自の知識を要する。また、テキストファイルであるため、記述量の増加によるミスや、構成情報がテキストからイメージし難いという問題も抱えている。

本研究では GUI を用いオーケストレーション定義を行うことにより、従来のテキスト入力における問題点を解決する新規テンプレートファイル作成ツールの開発を行い、従来の方法に比べて短時間かつ容易に仮想環境を構築できることを示した。

キーワード OpenStack , IaaS , Heat , オーケストレーション

Abstract

English

key words English

目次

第 1 章	はじめに	1
第 2 章	オーケストレーション定義エディタの提案	4
2.1	オーケストレーション定義エディタの概要	4
2.2	オーケストレーション定義エディタの要件	5
2.3	Heat で扱うリソース	5
2.4	リソースの依存関係	6
2.5	テンプレートファイルへの出力補助方法	7
第 3 章	オーケストレーション定義エディタの実装	8
3.1	動作環境	8
3.2	画面構成	8
3.2.1	構成確認画面	8
3.2.2	詳細入力画面	8
3.3	テンプレートファイル出力の流れ	8
3.3.1	インスタンスに関する記述	8
3.3.2	ネットワークに関する記述	8
第 4 章	評価	9
4.1	評価の目的	9
4.2	評価内容	9
4.3	評価環境	10
4.4	結果	11
4.5	考察	12

目次

第 5 章	おわりに	13
5.1	研究のまとめ	13
5.2	今後の課題	13
	謝辞	14
	参考文献	15
	付録 A	16
	付録 B	17

図目次

1.1	クラウドサービスの世界市場規模の推移及び予測	1
2.1	オーケストレーション定義エディタの概略	4
2.2	データ保管用 Class	7

表目次

1.1	OpenStack の主要コンポーネント	2
1.2	Heat の問題点	3
2.1	オーケストレーション定義エディタに求められる要件	5
2.2	リソースの依存関係	6
4.1	評価要素	10
4.2	各評価要素の実験結果-従来方式	11
4.3	各評価要素の実験結果-オーケストレーション定義エディタ	12

第 1 章

はじめに

サーバー仮想化や通信ネットワークの技術進歩に伴い、クラウドコンピューティングが普及している。一般ユーザー向けに提供されるサービスや、企業内で利用される専用アプリケーションなど、多くのサービスがクラウドを用いて提供されており、クラウドコンピューティングにおいて IaaS の需要が高まっている。総務省が公開している「平成 27 年度版 情報通信白書」第 5 章第 2 節によると、図 1.1 に示す通り市場規模における IaaS の規模が、2018 年時予測の段階で 2012 年時規模の約 4 倍にまで増加する。[1]

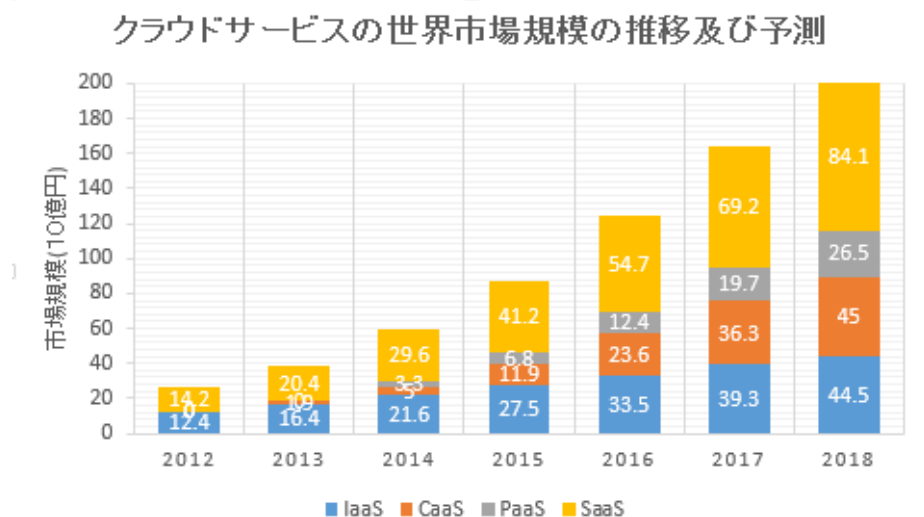


図 1.1 クラウドサービスの世界市場規模の推移及び予測

OpenStack は、機能別にコンポーネントが分かれており、各コンポーネントが相互に連携して動作する。OpenStack の主要コンポーネントを表 1.1 に示す。

表 1.1 OpenStack の主要コンポーネント

コンポーネント	機能
Glance	仮想マシンで使用されるゲスト OS の管理
Cinder	ブロックストレージにてゲスト OS 等を永続管理
Neutron	仮想ネットワークの管理
Horizon	OpenStack の操作管理を行う WebUI の提供
Swift	オブジェクトストレージの提供
Heat	仮想環境構築のためのオーケストレーション機能の提供

Heat とは、本来 OpenStack 利用者が手動で、各コンポーネントに指示を出し行っている仮想環境構築の手順を自動化する機能を提供している。自動化の手順としては、各コンポーネントを実行するために必要な項目を「Heat テンプレートファイル（以降テンプレートファイルと呼ぶ）」に記述、テンプレートファイルを読み込むことで各コンポーネントで実行される内容を自動で実行し仮想環境を構築を行うというものである。尚、テンプレートファイルには独自の書式が存在する。

OpenStack の各コンポーネントを自動化することができる Heat だが、現状問題が存在する。図 1.2 に問題点を示す。

表 1.2 Heat の問題点

問題点	詳細
Heat テンプレートファイルの書式が複雑	入力内容を把握しづらい。また、文中のインデントの深さで入力内容を区別するという特殊な書式もある。
膨大なテキスト記述量	手動入力で仮想環境のシステム構成について記述するため、記述に膨大な時間がかかる。
テンプレートファイルから構成情報を把握しづらい	構成情報を全てテキストで記述しているため、一見して構築途中または構築完了後の構成をテンプレートファイルからは把握しづらい。

第 2 章

オーケストレーション定義エディタ の提案

2.1 オーケストレーション定義エディタの概要

オーケストレーション定義エディタとは、従来手動で行っていた Heat テンプレートファイル作成を GUI ベースで作成補助をすることによりテンプレートファイル作成にかかる時間を削減し、容易に Heat を用いた仮想環境構築を可能にするエディタである。オーケストレーション定義エディタの概略図を図 2.1 に示す。

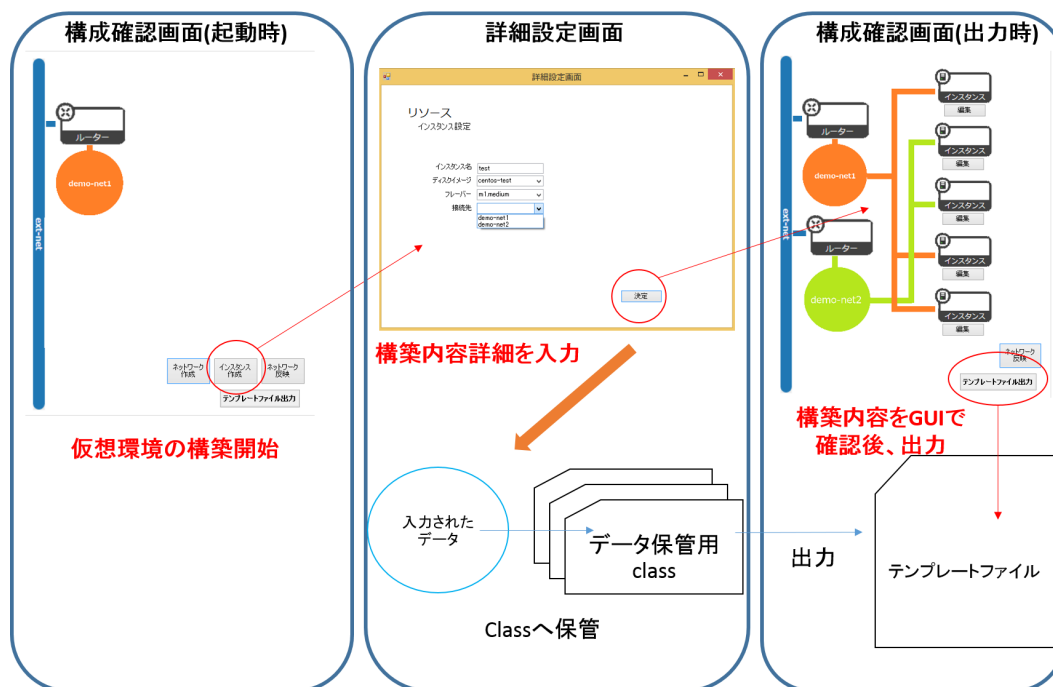


図 2.1 オーケストレーション定義エディタの概略

2.2 オーケストレーション定義エディタの要件

オーケストレーション定義エディタで取り扱う Heat は OpenStack 内のコンポーネントであるため利用者は最低限 OpenStack に関する基本的な知識は必要である。それ以外の前提知識を有していなくとも利用者がスムーズに仮想環境を構築するために表 2.1 に要件を定義した。

表 2.1 オーケストレーション定義エディタに求められる要件

要件	理由
操作インターフェイスは GUI	構築中のシステム構成を可視化するため
利用対象者は OpenStack に関する基本的な知識を有したインフラエンジニア	Heat は OpenStack 内のコンポーネントであり, Heat で扱える内容は仮想環境構築といったエンジニア向けのものであるため
扱うシステム構成のネットワーク規模は 1 から 3 セグメント	(まだ理由がない)
インスタンス名入力項目以外の手動入力方式を廃止	テキスト入力量を削減し, テンプレートファイル作成にかかる時間を短縮するため
入力項目の明確化	正しい内容を入力することで, テンプレートファイル読み込み時のエラーを抑止

2.3 Heat で扱うリソース

オーケストレーション定義を行う Heat では, 複数個のリソースを取り扱っている。お互いに依存しあうリソースについて記述を行うことで仮想環境を構築する。

2.4 リソースの依存関係

Heat で取り扱うリソースはそれぞれ他のリソースに依存している。依存しているリソースを参照することで仮想環境を稼働させる。依存関係を表 2.2 に示す。

表 2.2 リソースの依存関係

リソース	依存している他のリソース
ネットワーク及びサブネット	外部へ接続するため、外部ネットワークを参照する。サブネットでは使用する IP アドレス範囲を指定。
ルータ	接続先を指定するためにネットワークを参照する。
ルータインターフェイス	ネットワークとルータを接続している。どのネットワークが自身の依存するルータに接続されるのか管理している。
インスタンス	接続先を指定するためにネットワークを参照している。参照したネットワークに応じて、予めサブネットで範囲指定しておいた IP アドレスを割り振り、ルータを介して外部ネットワークへ接続できる。

(ここに、リソースの関係を表した図を貼り付ける)

構成上最も外側のネットワークを参照できるのは内部に存在するネットワークである。外のネットワークへの出口を確保することで、セグメント内から外部へネットワークを通じて接続できるようにしている。サブネットではセグメント内で使用する IP アドレスの幅を設定する。ここで設定された IP アドレス範囲内にインスタンスを接続する。

Heat では、これらリソースの依存関係、参照先をテンプレートファイルへ記述、テンプレー

2.5 テンプレートファイルへの出力補助方法

トを読み込むことで自動で仮想環境を構築する。

2.5 テンプレートファイルへの出力補助方法

仮想環境構築を補助する Heat だが、テンプレートファイル作成には多大な時間がかかり、更には記述の為に Heat に関する専門知識が必要であるため手軽に利用できない。そこでテンプレートファイル作成を容易にするため、オーケストレーション定義エディタではテンプレートファイルへの出力補助を行う。

オーケストレーション定義エディタでは、ユーザに入力されたデータは一度「データ保管用 Class」へ保管する。(図 2.2) このデータ保管用 Class にはオーケストレーション定義エディタからであれば何度もアクセスと編集が可能である。そのため構築途中で、既に記述をした項目を修正することも容易である。入力された複数のデータをデータ保管用 Class に保持し続けておき、テンプレートファイルへ出力を行う際にデータ保管用 Class を呼び出し、Class 内に保管されているデータをテンプレートファイルへ出力する。

```
public class InstanceConfig
{
    public String instanceName;
    public int imageNum;
    public int flavorNum;
    public int networkNum;
    public String imageName;
    public String flavorName;
    public String networkName;

    public InstanceConfig()
    {
        this.instanceName = "";
        this.imageNum = 0;
        this.flavorNum = 0;
        this.networkNum = 0;
        this.imageName = "";
        this.flavorName = "";
        this.networkName = "";
    }
}
```

図 2.2 データ保管用 Class

第 3 章

オーケストレーション定義エディタ の実装

3.1 動作環境

本研究で作成されたオーケストレーション定義エディタはプログラミング言語である C# を使用して作成されているので, 動作には「Microsoft .NET Framework 4.6」環境が必要である.

3.2 画面構成

オーケストレーション定義エディタは大きく分けて 2 つの画面から構成されている. 以下に画面構成を示す.

3.2.1 構成確認画面

3.2.2 詳細入力画面

3.3 テンプレートファイル出力の流れ

3.3.1 インスタンスに関する記述

3.3.2 ネットワークに関する記述

第 4 章

評価

4.1 評価の目的

1 章「はじめに」中で提示した「Heat の問題点」を解決できたか検証するために被験者には, 各手法に関する前提知識の勉強時間, 作成インスタンス数とルーター数の増加させての作成所要時間, テンプレートファイル読み込み時にチェックされる記述ミスによるエラー発生数について, 従来方式, オーケストレーション定義エディタ使用时それぞれで同じシステム構成を構築してもらい比較する.

4.2 評価内容

従来方式, オーケストレーション定義エディタそれぞれでシステム構築をする場合に以下の表 4.1 に示している評価要素についてデータを記録する.

4.3 評価環境

表 4.1 評価要素

評価要素	詳細
学習時間	各方式についての説明用ドキュメントを用いた学習時間
作成所要時間	各方式それぞれテンプレートファイル作成開始からテンプレートファイルをエラー無しの状態で正常に読み込ませるまでに要した時間
エラー発生回数	テンプレートファイルを Heat に読み込ませた時にエラーが発生した回数. 正常に読みこませられるまで修正したテンプレートファイルを読みこませ直し続けるのでその都度エラーが発生すれば増加する

4.3 評価環境

本評価実験は、オーケストレーション定義エディタの動作環境を満たしている「Microsoft .NET Framework 4.6」環境で評価を行った。

また、本評価実験で構築する仮想環境システム構成を以下に示す。

- 1 instance 数 1 つ,Router 数 1 つ
- 2 instance 数 3 つ,Router 数 1 つ
- 3 instance 数 5 つ,Router 数 1 つ
- 4 instance 数 5 つ,Router 数 2 つ
- 5 instance 数 5 つ,Router 数 3 つ

1, 2, 3 のシステム構成は単純にインスタンスの数のみを増加させ 4, 5 のシステム構成は基本的な構成に関しては 3 と同じだが、作成するルーターの数（内部のネットワーク、サブ

4.4 結果

ネットの数)を増加させている。これは、インスタンスに関する記述のみを増加させた場合とルーターに関する記述を増加させた場合、記述増加量の差があるため双方の記述所要時間とエラー発生回数の増加幅やデータの動きに差が生まれると予測したためである。

4.4 結果

評価実験の結果, 従来方式については図 4.2, オーケストレーション定義エディタについては図 4.3 を示す。

表 4.2 各評価要素の実験結果-従来方式

評価要素	最小値	最大値
学習時間	413(秒)	540(秒)
作成所要時間 (1)	685(秒)	1328(秒)
作成所要時間 (2)	531(秒)	1560(秒)
作成所要時間 (3)	597(秒)	931(秒)
作成所要時間 (4)	525(秒)	1258(秒)
作成所要時間 (5)	485(秒)	1532(秒)
エラー発生回数 (1)	1(回)	7(回)
エラー発生回数 (2)	1(回)	3(回)
エラー発生回数 (3)	0(回)	5(回)
エラー発生回数 (4)	0(回)	7(回)
エラー発生回数 (5)	0(回)	4(回)

4.5 考察

表 4.3 各評価要素の実験結果-オーケストレーション定義エディタ

評価要素	最小値	最大値
学習時間	72(秒)	180(秒)
作成所要時間 (1)	27(秒)	71(秒)
作成所要時間 (2)	87(秒)	166(秒)
作成所要時間 (3)	105(秒)	190(秒)
作成所要時間 (4)	113(秒)	228(秒)
作成所要時間 (5)	142(秒)	229(秒)
エラー発生回数 (1)	0(回)	0(回)
エラー発生回数 (2)	0(回)	0(回)
エラー発生回数 (3)	0(回)	0(回)
エラー発生回数 (4)	0(回)	0(回)
エラー発生回数 (5)	0(回)	0(回)

4.5 考察

第 5 章

おわりに

5.1 研究のまとめ

5.2 今後の課題

謝辭

参考文献

- [1] 総務省 平成 27 年度版 情報通信白書 第 5 章第 2 節「ICT 産業のグローバルト
レンド」 [http://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/h27/pdf/
index.html](http://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/h27/pdf/index.html)

付録 A

付録 B